

4月 (回答数 151) と 6月 (回答数 144)、7月 (回答数 141)、9月 (回答数 142)、10月 (回答数 115) の変化 (全体)



本調査研究の最大の目標は、継続的な指導の中で「SNSに投稿するとき」のアンケートにおいて、「これをあげたらどうなるかよく考えてあげている」+「これを上げたらどうなるか少し考えてあげている」という割合を増やしていくことである。生徒のSNSトラブルを減らす意図をもって取り組んだ。年間を通して当初の状況 48%→69%と 20%以上の改善が見られた。夏休み直後の9月の調査では1学期間のよい変化に停滞が見られたが、10月の調査では改善できており、これまでよりよい傾向がみられた。年間の指導計画を立て、学校行事などに合わせ計画的に長期的に実施できたことで今回の結果につながったと考えられる。これまで行ってきた独自のSNSに関する取り組みと比較しても今回は優位な結果となっている。SNSトラブルを減らす効果はあったのではないかと。

よく使うSNSについては、TicTokが4月から6月に向けて激増しているが、その後は30%前半で推移している。体育大会前であった状況を鑑み、変化に対応した指導に当たることができた。また、インスタグラムは相変わらず半数の生徒が使用。よく使うSNSとの質問項目であるが、スマホにアプリとしていれている生徒の割合はこの結果以上であると考えられる。高校生にとっては、もはやスタンダードといえるSNSの1つである。(「よく使うSNS」はLINEを除外して回答)

「SNSに上げようと思ったが、良くないかなと考える」Noが増えている。増えた分は、これまでの指導や取り組みとして前向きな結果ではないかと考えている。こういった画像や動画をあげることがトラブルにつながるかについて理解を深めた結果、上げてよいものとよくないものの判断が事前についており、投稿前に考える必要がなくなった結果だと考えている。SNSにこれは上げてはいけないもの、トラブルになりそうだななどの判断ができるようになったと考えている。

投稿する頻度に関しては、生徒それぞれで毎日投稿する生徒も少ない生徒もそれぞれの割合でいる。特徴的なのは、文化祭や体育大会などのイベントがあった時である。本校ではスマホの使用を日常的に校内で許可していることが、イベント時の投稿の増加が顕著。体育大会後の6月、文化祭後の10月の調査ではそれぞれイベントの時に投稿するの項目が増加。また、その反面夏休みは投稿が減る傾向がある。学校での出来事が生徒にとって大きな関心事で投稿したくなるのだろう。学校で指導する意味や効果はやはりあると言える。